



# Emergency Watch NO. 43 July, 2014



神戸こども初期急病センター 2014年6月受診者数：2031人



## 訴え

- 1. 発熱 : 1235人 ( 955人)
- 2. 咳 : 686人 ( 177人)
- 3. 鼻汁 : 490人 ( 10人)
- 4. 嘔吐 : 425人 ( 169人)
- 5. 腹痛 : 273人 ( 117人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

## 疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 654人
- 2. 感染性胃腸炎 : 323人
- 3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 116人
- 4. じんま疹 : 107人
- 5. クループ性気管支炎 : 85人

## ☆今月のワンポイント☆

7月に入りました。前月の6月の受診患者さんの数は2031人で、疾患の頻度では、クループ症候群（急性喉頭炎）が増加しています。特有の犬が吠える様な咳や発熱の一過性の症状が特徴で、吸入や内服薬等で軽快することが多いですが、時に重症の呼吸困難をきたすことがあるので注意が必要です。

さて、今回は、小児救急診療の現場で、「いつから、幼稚園（保育園）・学校に行けますか」との質問がよくありますので、表に登校（園）基準をまとめました。御参考にいただければと思います。

感染症名	登校(園)基準	感染症名	登校(園)基準
ポリオ	急性期の症状が治癒後	重症急性呼吸器症候群	治癒後
ジフテリア	治癒後	鳥インフルエンザ	治癒後
インフルエンザ	発熱した後5日、かつ解熱した後2日を経過するまで。幼児においては、発症した後5日、かつ解熱した後3日を経過するまで	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫張が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好となるまで
麻疹	解熱後3日経過した後	百日咳	特有な咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで
風疹	発疹の消失後	ロタウイルス感染症	下痢、嘔吐が消失した後
水痘	すべての発疹が痂皮化した後	ノロウイルス感染症	下痢、嘔吐が消失した後
咽頭結膜熱	主要症状が消失して2日経過後	サルモネラ感染症	下痢、嘔吐が消失した後
結核	感染のおそれがないと認められた後	カンピロバクター感染症	下痢、嘔吐が消失した後
髄膜炎菌性髄膜炎	感染のおそれがないと認められた後	マイコプラズマ感染症	症状が安定した後
コレラ	治癒後	インフルエンザ菌b型感染症	症状が安定した後
細菌性赤痢	治癒後	肺炎球菌感染症	症状が安定した後
腸管出血性大腸菌	感染のおそれがないと認められた後	RSウイルス感染症	症状が安定した後
腸チフス、パラチフス	治癒後	EBウイルス感染症	症状が安定した後
流行性角結膜炎	感染のおそれがないと認められた後	サイトメガロウイルス感染症	症状が安定した後
急性出血性結膜炎	感染のおそれがないと認められた後	単純ヘルペス感染症	歯肉口内炎のみであればマスクをして可
溶連菌感染症	適切な抗菌薬による治療開始後 24	日本脳炎	症状が安定した後

	時間以降		
A 型肝炎	肝機能が正常化した後	突発性発疹	症状が安定した後
B 型肝炎	急性肝炎の極期でない限り	アタマジラミ	制限はない
手足口病	全身状態が安定していれば	伝染性軟属腫	制限はない
ヘルパンギーナ	全身状態が安定していれば	伝染性膿痂疹	制限はない
無菌性髄膜炎	全身状態が安定していれば	蟻虫症	制限はない
伝染性紅斑	全身状態が安定していれば	ヒトパピローマウイルス	制限はない

(2014 年 6 月現在、日本小児科学会 予防接種・感染対策委員会：「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説」より抜粋)

**発行：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門**